

# 日中友好の輪

## 2016年

### 新春交歓の集い 開催

1月25日(月)、横浜崎陽軒本店にて協会主催の「2016年新春交歓の集い」が開催され、県内外から約100名に及ぶ関係者が出席した。

16時に開会した本会は大きく2部構成に分かれ、第1部では高校生による訪中の結果報告と、王敏法政大

学教授の講演が行われた。高校生の報告では、「中国の高校生は目標をしっかりと持っている人が多い」とや、「日本の高校生は中国に行



並木会長挨拶

きたがらないが、中国の良い点を伝えていきたい」、「日中友好はお互いを理解し合うことが大切」などの報告があった。参加者は高校生の立派な報告に感心していた。(2・3面参照) 17時30分からの第2部では、会場を宴会場に移して懇親会が行われた。



黒岩知事ご祝辞

はじめに並木裕之会長は挨拶の中で、「2017年に迎える日中国交正常化45周年に向けて、私たち一人ひとりが日本と中国のために何ができるのかをあらためて考え、日中友好のさらなる発展のために、さまざまな分野で市民レベルの交流や理解を推し進めてまいりたい」と決意を述べた。



汪婉参事官ご祝辞

編集・発行  
一般社団法人神奈川県  
日本中国友好協会  
Tel 045(896)0124



懇親会

### 新春講演会

#### 王敏法政大学教授講演

王敏法政大学教授の講演は、講演会のパート2として行われた。会場は日中比較文化研究の第一人者である先生の講演とあって約80名の参加者が集まった。

講演は、「日中文化交流の現代的価値を考える」たけくらべの新時代」のタイトルで開催された。

先生は四川外国語学院大学院在学中、石川一成先生(後に、湘南高校の教頭在任中に死去)から日本語を学び、その後日本に留学。神奈川県開成町で「治水神」として祀られた禹王の顕彰

碑を初めて見て、日本全国にも禹王信仰が生き続けていることを知る。禹王信仰は漢字文化圏である東アジアにも存在、日本では「和魂漢才」として独自展開を図っている。また、民衆における禹王信仰が経済的発展や平和貢献にも繋がっていると指摘。

最後に、講演を機に、目に見える価値と目に見えない価値、時間をかける価値とすぐ得られる価値について、皆さん自身が考えていただきたいと締め括られた。

参加者は神奈川県にゆかりのある話に親しみを感じながら聞き入っていた。著書に『日本と中国』、『禹王と日本人』等がある。



王敏法政大学教授